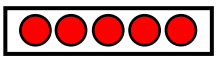
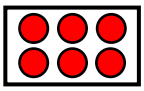
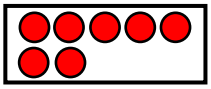
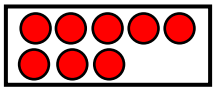
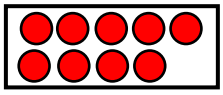
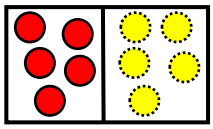
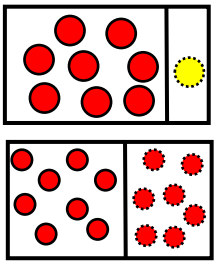
第 1 学 年 算 数 科 学 習 指 導 計 画

1年2組　指導者　岡 本 貴 裕

２１M（７時間）　　が本時

学習活動	子どもの意識
第１次　数の分解や合成の仕方を考える　15M（５時間）	
学習内容　・一つの数を多面的にみること（知）　・数の分解や合成の仕方を考えること（思） ・自らの数についての感覚を働かせるよさ（態）	
□５の分解や合成の仕方を考える　（３M） 	・５個の〇を分けるのだね。どんな分け方ができるのかな。ぼくは、３個と２個に分けたよ。わたしは、２個と３個に分けたよ。なんだか、さっきと分け方が似ているよ。他にも、１個と４個や４個と１個にも分けられるね。５は３と２のようにみることができるのだね。他の数も分けてみたいな。
□６の分解や合成の仕方を考える　（３M） 	・今日は、６個の〇を分けてみよう。前回のようにたくさんの分け方があるのではないかな。ぼくは、４個と２個、２個と４個に分けてみたよ。似た分け方を考えると、すべての分け方を見つけられそうだね。６のようにきれいに半分に分けられる数もあっておもしろいな。半分に分けられる数は他にもありそうだよ。
□７の分解や合成の仕方を考える　（３M） 	・７はきれいに半分に分けられるのかな。いろいろな分け方を試してみよう。わたしは、４個と３個、３個と４個に分けることができたよ。ぼくもいろいろ分けてみたけど、どんな分け方をしてもきれいに半分に分けられなかったよ。この空いている部分は何かな。ここに〇があと３個あれば、10 個ぴったりになるね。10 個ぴったりだと、きれいに半分に分けられるよ。
□８の分解や合成の仕方を考える　（３M） 	・５、６、７と分け方を調べてきたけれど、６だけがきれいに半分に分けることができたね。８はどうなのかな。早速、分けてみよう。あっ、４個と４個できれいに半分に分けることができたよ。他にも５個と３個や３個と５個など、全部で７つの分け方があることが分かったよ。７個のときと同じように、空いている部分にあと〇が２個あれば、10 個ぴったりにもなるよ。次の調べる数は、９だね。
□９の分解や合成の仕方を考える　（３M） 	・９個の〇の分け方を考えるぞ。ぼくは、５個と４個や６個と３個、７個と２個、８個と１個と順番に分けていったよ。このように１つずつ分けると、分け方が多くてもすべての分け方を見つけられるよ。わたしは、Ｋくんの反対の分け方を見つけたよ。全部で８つの分け方があるのだね。あれ、９も空いている部分に、あと〇が１個あれば、10 個ぴったりになるよ。７、８、９は、10 個ぴったりにしたくなる数だな。
第２次　10 を超える数の分解や合成について考える　6M（２時間）	
学習内容　・一つの数を 10 と関係付けてみること（知）　・数の分解や合成の仕方を考えること（思） ・自らの数についての感覚を働かせるよさ（態）　・数の分解や合成をすることのよさ（態）	
□10 を超える数の分解や合成について考える①　（３M） 	**・〇がいくつあるかを数えるのだね。半分で〇が５個出てきたから、あと半分も５個あるのではないかな。【自】赤色の〇が５個と黄色の〇が５個でぴったり 10 個になるね。次は、赤色の〇が９個出てきたよ。黄色の〇が１個出てきたから、またぴったり 10 個になったよ。赤色の〇が９個と黄色の〇が１個でぴったり 10 個だね。今度は、赤色の〇が８個出てきたよ。黄色い〇が２個ありそうだね。たしかに。今まで赤色の〇と黄色の〇でぴったり 10 個になっていたからね。いや、もっと**

 □10 を超える数の分解や合成について考える② （３M）	**多くて、黄色の〇が６個くらいあると思うよ。６個もあると、いくつあるか数えにくいな。うん、数えにくいよ。だって、〇がたくさんあって、バラバラだからね。いや、おはじきを使って、黄色の６個の〇を２個と４個に分ければいいのだよ。【対】本当だ。もともとあった８個に２個合わせて、10 個のまとまりがつくれるね。【他】８を 10 にするために、６を２と４に分けて合わせるとよかったね。あれ、赤色の〇が７個出てきたぞ。６個のときと同じようにやってみよう。** ・〇が７個あるね。あと〇が３個出てくれば、10 個になるね。〇はあといくつ出てくるのかな。〇があと８個出てきても数えられるよ。８を３と５に分けて、もともとある７に３を合わせて 10 にすればいいのだね。前の時間の考え方と同じだね。２つの数を合わせて 10 を超えても 10 をつくると簡単に数えることができたよ。10 をつくるためには、数を分けたり合わせたりすることが大切だということが分かったよ。この数え方を使うと、もっと大きい数でも数えることができそうだよ。